

公開シンポジウム

# ビッグデータの 創薬と医薬品適正使用への 活用に向けた提言

主催：日本学術会議 薬学委員会 医療系薬学分科会・日本薬学会

後援：日本医療薬学会、日本薬理学会、日本薬剤学会、  
日本薬物動態学会



平成30年

11/20 (火) 9:30-17:00

参加費  
無料  
事前申し込み  
不要

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34  
東京メトロ千代田線 乃木坂駅5番出口 徒歩1分



お問い合わせ先 実行委員長：入江 徹美

(日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会、  
熊本大学大学院生命科学研究部 薬剤情報分析学分野薬学部附属 育薬フロンティアセンター (CCPS))  
〒862-0973 熊本市中央区大江本町5-1 / TEL&FAX: 096-371-4552  
tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp

- 9:30-9:40 開会の挨拶  
奥 直人(日本薬学会会頭)、望月 眞弓(日本学術会議薬学委員会委員長)
- 9:40-9:45 趣旨説明  
入江 徹美(日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会)
- 9:45-10:05 ビッグデータの創薬研究への活用：概況  
笠原 忠(国際医療福祉大学大学院薬学研究所)
- 10:05-10:45 化学物質毒性ビッグデータベースと、  
インシリコによる毒性予測  
本間 正充(国立医薬品食品衛生研究所)
- 10:45-11:25 ナショナルデータベースの仕組みと  
ビッグデータ活用の実例  
石川ベンジャミン 光一  
(国際医療福祉大学大学院医学研究科)
- 11:25-12:50 昼 休み
- 12:50-13:30 ビッグデータとAI創薬への応用：現状と展望  
田中 博(東京医科歯科大学・東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)
- 13:30-14:10 医療ビッグデータ、特にDPCデータを用いた  
臨床疫学研究  
康永 秀生(東京大学大学院医学系研究科)
- 14:10-15:00 The Value Proposition of ICD-11  
and WHO-FIC for Big Data  
in the Medical World  
Nenad Friedrich Ivan Kostanjsek  
(Health Data Standards and Informatics  
Team at the World Health Organization)
- 15:00-15:10 休憩
- 15:10-15:25 リアルワールドデータの  
医薬品安全性評価への活用と課題  
宇山 佳明(医薬品医療機器総合機構 医療情報活用部)
- 15:25-15:40 創薬等におけるビッグデータ活用のために  
森田 正実(医薬産業政策研究所 統括研究員)
- 15:40-16:10 ヒトの多様性とAI、ビッグデータ  
谷 伸悦(内閣府 政策統括官(化学技術・イノベーション担当)付  
課題達成担当参事官(人・くらし担当) 付 参事官補佐)
- 16:10-16:55 総合討論  
司会進行：伊藤 美千穂(日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会)
- 16:55-17:00 閉会の挨拶  
寺崎 哲也(日本学術会議薬学委員会医療系薬学分科会委員長)